

教育講演Ⅱ

すべてのこどもにこども時間を！こどもの心を育むコミュニケーション

クリニックラウンの実践報告とクラウンハートワークショップ

石井裕子（認定 NP0 法人日本クリニックラウン協会理事・チーフトレーナー）

熊谷恵利子（認定 NP0 法人日本クリニックラウン協会 事務局次長兼マネージャー）

認定 NP0 法人日本クリニックラウン協会は、クリニックラウン（臨床道化師）を小児病棟に派遣し、入院しているこどもたちが、こども本来の生きるチカラを取り戻し、笑顔になれる環境を創るために 2005 年から活動しています。

赤い鼻をつけた道化師のことを英語で「Clown（クラウン）」と言います。日本ではピエロという言葉の方が馴染みがあると思いますが、ピエロは道化師の役柄の一つであり、総称を表す場合は「Clown（クラウン）」となります。派手なメイクなどをしていないので、一番人間らしいクラウン、それがクリニックラウンです。



クリニックラウンは、病院（クリニック）を訪問する道化師（クラウン）のこと。入院生活を送

るこどもの病室を定期的に訪問し、入院しているこどもたちが病気のことを一瞬でも忘れて、こどもらしく過ごせる「こども時間を届け」、遊びやユーモアやコミュニケーションを通してこどもの成長をサポートしています。



日本クリニックラウン協会の設立は、2004 年にオランダ総領事館文化プログラムとしてオランダのクリニックラウンが日本に初めて紹介されたのがきっかけです。当時、日本には病院を訪問する道化師はほとんどいませんでした。クリニックラウンの先進国であるオランダでは、9 割近い小児医療施設にクリニックラウンが定期的に訪問しており、クリニックラウンの認知度は非常に高いのです。



来日したオランダのクリニクラウンが日本の小児病棟で活動した様子を見た医師、看護師、病院関係者、患者の家族、道化師などがクリニクラウンの必要性を感じ、日本の状況に合わせた日本独自のクリニクラウンを養成しようとなり、2005年に日本クリニクラウン協会が設立されました。クリニクラウンオランダ財団と連携を取り、日本で唯一、クリニクラウンの養成・認定・派遣・啓発活動を行っています。

入院生活を過ごす子どもたちは、病気の治療のために様々な制限の中で入院生活をしています。自分のいた環境とは異なる場所で、患者という立場になり、不安や孤立感、痛みを抱えた生活がスタートします。

また、どうしても治療が優先となるため、諦めや無力感、劣等感や疎外感を感じることも多くあり、自立感や自己肯定感をもつことができにくい環境でも

あります。そして、入院が長期化すればするほど、適応能力の高いこどもは、病院の環境に慣れていきます。家族に迷惑をかけたくない、大人びたふるまいをする子供たちも多くいます。こどもがこどもらしくすごすことが難しい環境だからこそ、入院生活を過ごすこどもたちが、こどもらしく過ごせる「こども時間」をクリニクラウンは届け、医療スタッフと協働し、療養環境の向上を目指しています。



こどもにとって病院は、検査や薬の服用など痛いことや嫌なことがたくさんあります。しかし、クリニクラウンが訪問するようになってから、クリニクラウンが来る前に、「検査を終わらせたい。」「風呂に入りたい。」「クリニクラウンにこんなことをしたい。」とこどもたちたちから医療スタッフに話すことが増え、治療や遊びに積極的になったということを医療スタッフから聞くこともあります。つまり、受け身ではなく、こどもが自ら進

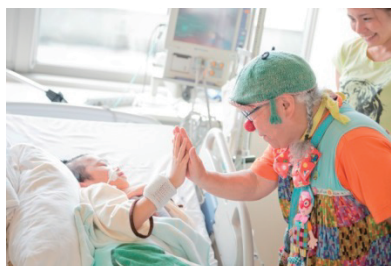
んで何かをする状況が生まれてきているということです。こどもたちが主体的になれるように支えていくことが大切だと考えています。



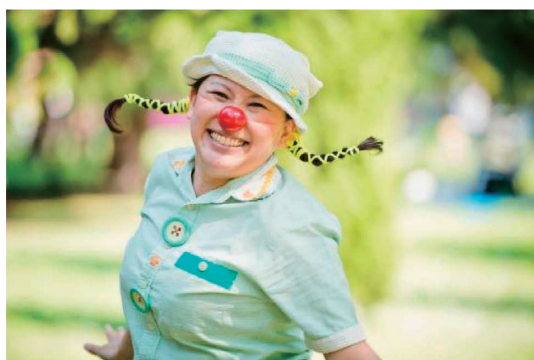
また、クリニクラウンと出会うことで、医療スタッフや患者という立場をこえて、その人らしさが引き出され、病棟内に豊かなコミュニケーションが生まれます。クリニクラウンならではのユーモアやコミュニケーションを用いて、人と関わることの楽しさや喜びをこどもや家族や病棟スタッフと一緒に感じてもらい、今ここにいる人達と一緒に、こどもたちの心を育んでいきます。

クリニクラウンは、自分の中にある驚きや喜びを素直な感情を表現すること、常にこども心を磨いて、自分の心を豊かにし、お互いに感動を共有できることを大切にしています。クリニクラウンになるためのトレーニングでは、心の奥に押し込んでいる自分の中のこども心や、自分

のこころを見つめるトレーニングをして、目の前のこどもと心をつながられるようにしています。



今回は、クリニクラウンの13年間の実践の中から、クリニクラウンのコミュニケーションを通じて、こどもの自発性を呼び起こし、こどもと家族の心に寄り添うクリニクラウンの活動について報告します。また、後半のワークショップでは、ノンバーバル（非言語的）コミュニケーションの大切さについて再認識し、医療現場で重要になる「コミュニケーション」を、クリニクラウンならではのユーモアを交えて体感していただきます。



認定NPO法人

日本クリニクラウン協会（JCCA）

TEL：06-4792-8716